

ダイジェスト版

目指せ、公認会計士！

熊本県立熊本商業高等学校

2016年10月20日

公認会計士・監査審査会
会長 廣本 敏郎

本日の構成

- 公認会計士の世界
 - 3つのキーワード
- 現代経営の中枢を成す会計
- 市場経済と会計
 - 複式簿記の意義と歴史
 - 財務情報の信頼性確保のシステム
- 高卒シンママ会計士
- 社会で活躍する先輩方の声

I. 公認会計士とは “監査”及び“会計”の専門家

公認会計士の使命

>>> 公認会計士は、国家試験である公認会計士試験に合格した者だけに与えられる資格であり、公認会計士法にその使命等が規定されています。

《公認会計士法第1条》

公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする。

会計なくして経済なし

>>> 公認会計士は、グローバル化が急速に進む日本経済の健全な発展のために、監査人、コンサルタント、組織内会計士など、経済社会の様々な局面で、きわめて重要な役割を果たすべく幅広く活躍しています。



CPA
公認会計士
Certified Public Accountant

MISSION

ミッション
資本市場の番人として、企業等の財務情報の信頼性を確保し、投資家等を保護しています。

- 企業が作成する決算書の検証

PROFESSIONAL

プロフェッショナル
監査・会計の専門家として、高度な専門知識を活かし、多様なニーズに応じて専門的な視点から助言・指導を行っています。

- 株式公開支援
- M&A
- 組織再編

※このほか、税理士として登録を行うことにより、税務業務を行うことができます。

GLOBAL

グローバル
金融・資本市場のグローバル化、企業の海外展開等に伴い、活動のフィールドは世界に広がっています。

- グローバル経営戦略の策定
- 海外子会社を含むグループ決算

受験願書のインターネット受付が始まります

平成29年公認会計士試験第1回短答式試験からスタートするインターネット受付では、自宅のパソコンなどで、出願手続きを行うことが可能となり、郵送での手続きは不要となります。また、受験手数料の支払いについても、ネットバンキングやATMで行うことが可能となります（従来どおり、収入印紙を貼付した受験願書の郵送による出願も可能です。）。
手続きの詳細については、今後、公認会計士・監査審査会ウェブサイトで公表していく予定ですのでご確認ください。

現代経営の中枢を成す会計

～稲盛和夫『実学—経営と会計』より～

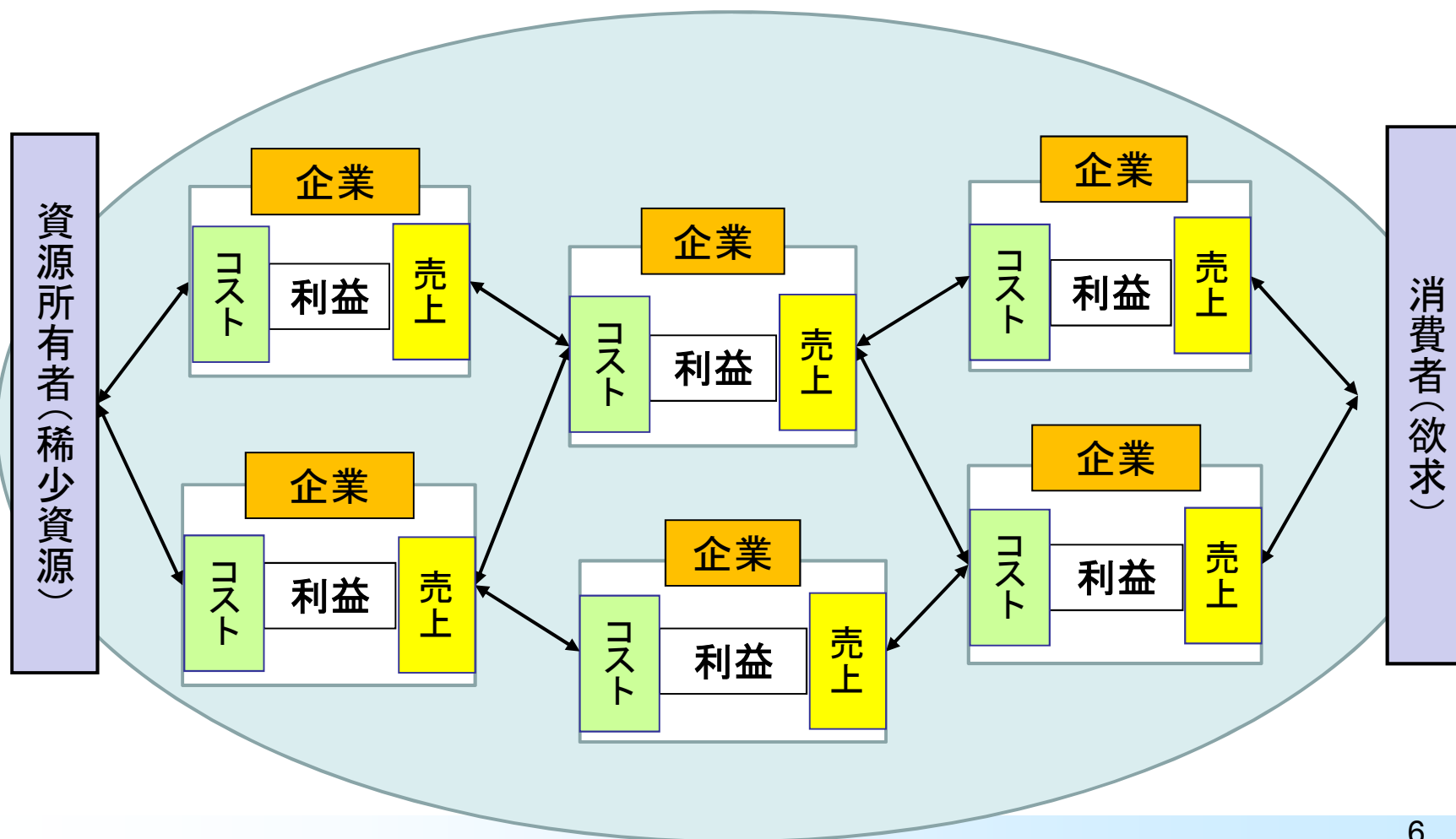
- ・ 日本経済は成熟化し、成長神話は崩れ去り、複雑なグローバル経済の中に組み込まれている。このような時代においては、経営者は、自社の経営の実態を正確に把握した上で、的確な経営判断を下さなくてはならない。そのためには、会計原則、会計処理にも精通していることが前提となる。
 - － ところが日本では、それほど重要な会計というものが、経営者から軽視されている。会計と言えば、事業をしていく過程で発生した金やモノにまつわる伝票処理を行い集計をする、後追いの仕事でしかないと考えている。 (続く)

現代経営の中枢を成す会計（続）

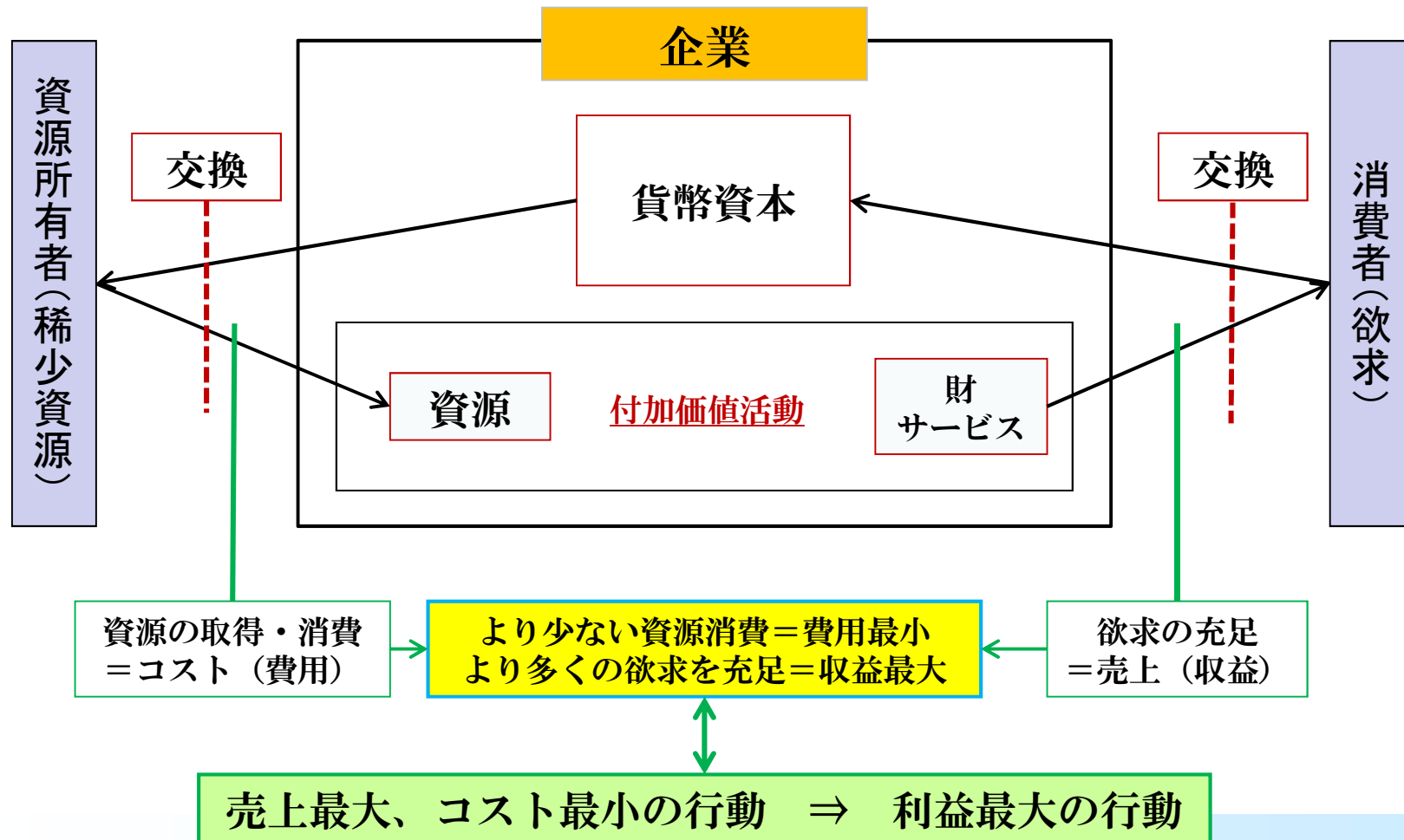
- ・ 経営者にとって必要なのは、結果として「いくら利益が出たか」であり、会計の処理方法は専門家が分かっているだけでよいと思い、更に、会計の数字は自分の都合の良いように操作できる、と考えている経営者さえいる。
 - － 私は京セラを創業、ゼロから経営を学んでいく過程で、会計は「現代経営の中枢」を成すものであると考えるようになった。企業を長期的に発展させるためには、企業活動の実態が正確に把握されなければならないことに気づいたのである。（稲盛和夫『実学』日本経済新聞社、1998年、2-3頁）

市場経済における企業の行動原理

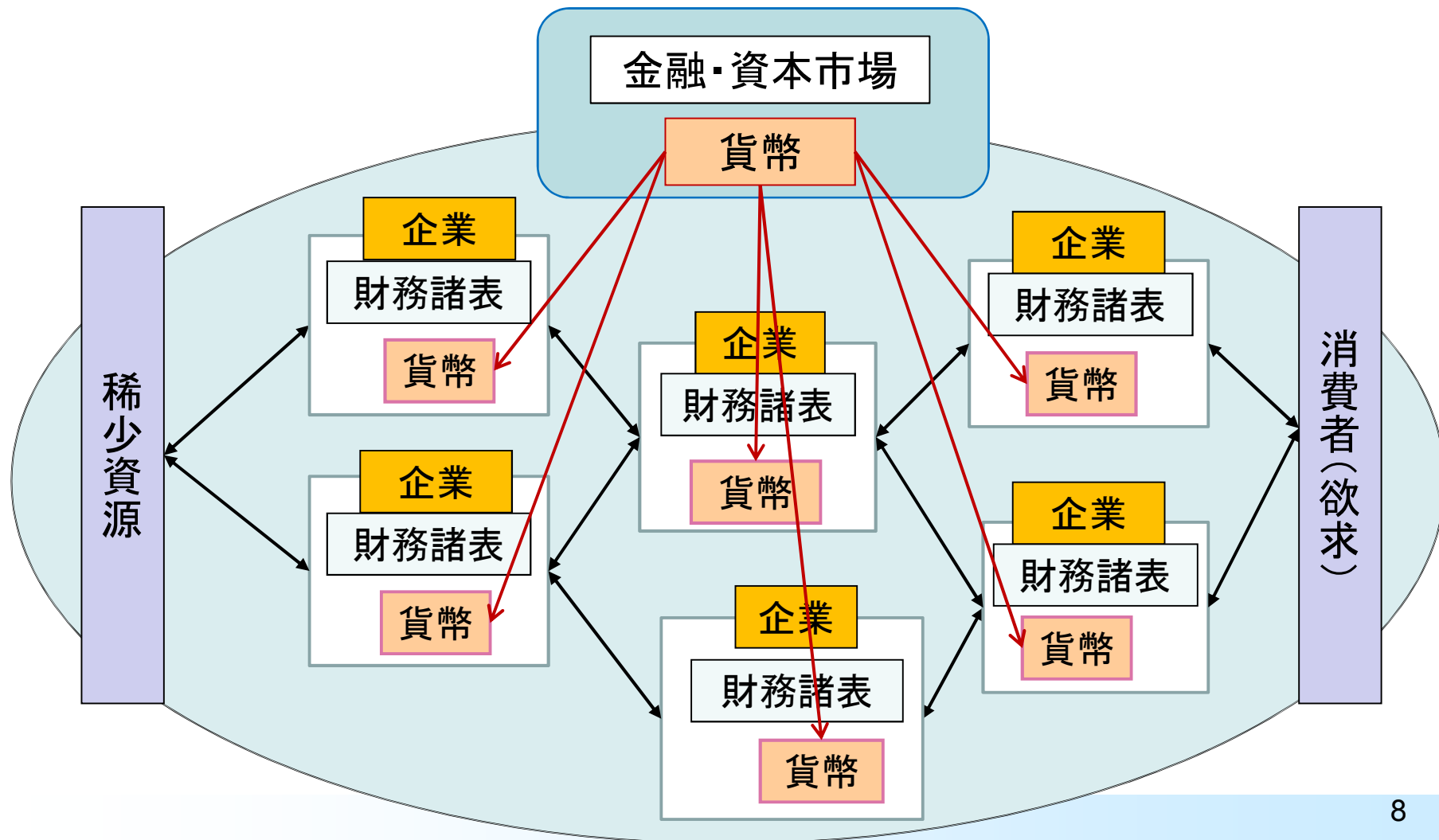
～売上最大、コスト最小～



簿記会計による企業活動の見える化

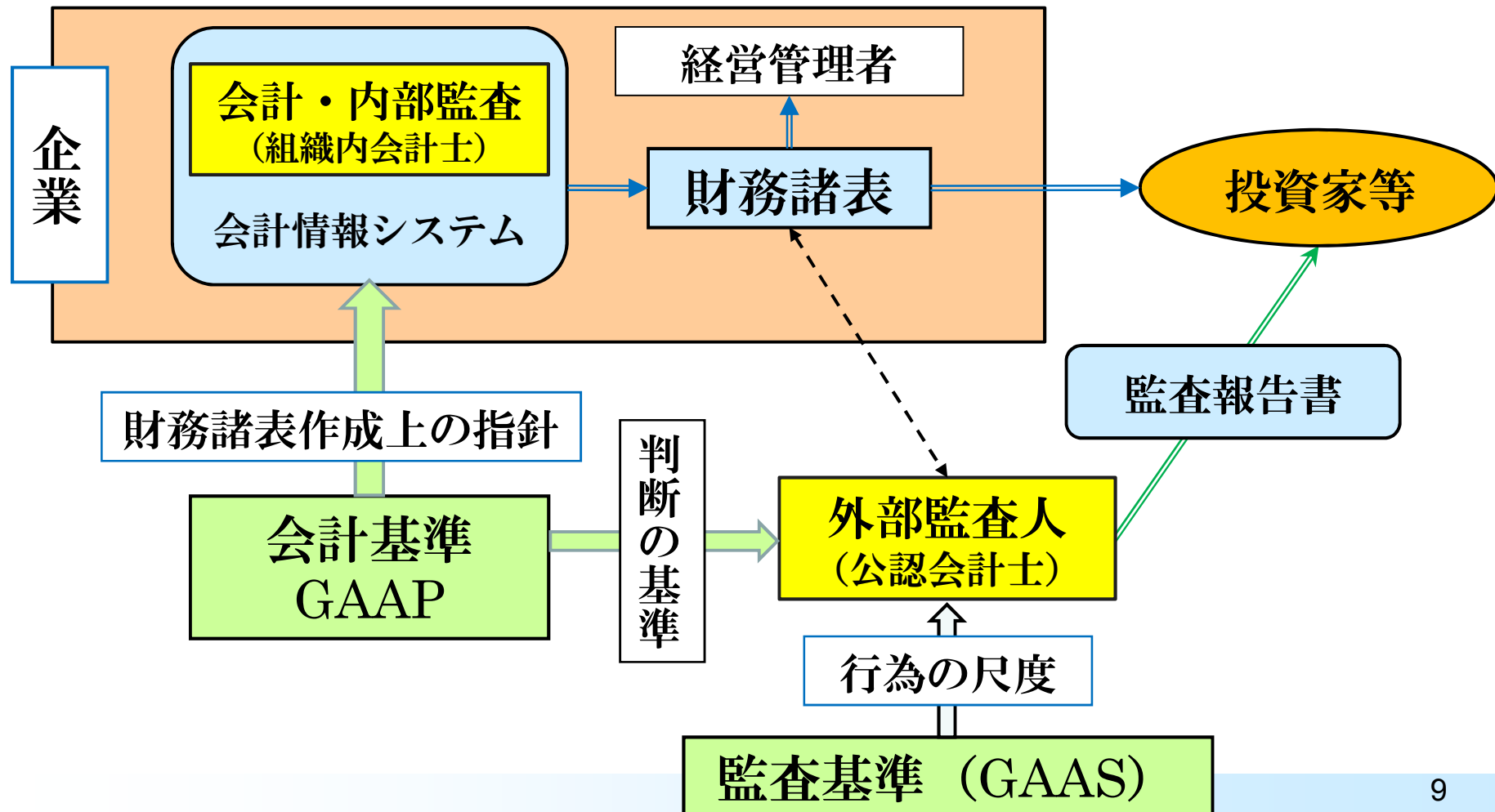


実体経済を支える金融・資本市場



財務情報の信頼性確保のシステム

～公認会計士の重要性～



松岡由紀子著『高卒シンママ会計士』

中央公論新社、2016年8月25日刊

- 1985年京都生まれ
 - 高校在学中に、日商3級合格
 - 高校卒業後、税理士事務所に勤務しながら、日商2級、更に、24歳で1級に合格
- 日商1級に合格してから“公認会計士”の資格の存在を知り、公認会計士試験に挑戦、2012年に試験合格
 - 合格後、監査法人トーマツに就職。
 - 2016年より税理士の父と公認会計士兼税理士事務所で税務業務・会計業務に従事

読売新聞、平成28年9月14日
「輝く女性の力になる日商簿記
(広告のページ)」

簿記は女性の活躍を支える

「女性が活躍するうえで簿記は役立ちますか。」

女性が社会や企業で活躍するには、「この人がいてありがたい」と思われることが必要です。簿記の知識を活かせば、「どのように費用が発生し、どのようにお客様から回収するか」など、ビジネスモデルの議論ができるようになります。固定費や粗利、顧客数などを念頭に、損益分

岐点を意識してビジネスをするのが本来の姿です。でも現実には、それができる人材は限られていて、女性の場合はさらに少ないと思います。

こうした、ビジネスに対する皮膚感覚を身につけることが、女性にとっては必要で、それを磨くには簿記の習得が一番です。簿記は細かな目配りが必要とする一方で、体力勝負ではないので、女性が勉強するのに向いていると思います。

簿記は「小さなMBA(経営学修

士)」と言ってもいいと思います。MBAを取るには数百万円単位のお金が必要ですが、簿記であれば検定受験料と学習のための費用で済みま

す。実際、1級や2級を持っていれば就職や転職の時にかなりアピールできます。

2級取得でビジネスがよく分かる

「簿記は、できれば2級まで勉強するほうがよい、とおっしゃっていますね。」

英語が話せないと外国の方と話ができないように、簿記を知らずに財務諸表は読めません。勉強するなら、商業簿記に加えて工業簿記が入る、2級まで取得することをお勧めします。商業であっても、カスタマイズなど、半ば工業的な仕事が増えています。社内で製造プロセスを持つことによって、どのように資産価値が増減するのか、帳簿上どうつながっているのかがわかったほうがいいと思います。



経済評論家 勝間 和代 さん

Profile 勝間 和代 Katsuma Kazuyo

1968年、東京都生まれ。経済評論家、中央大学ビジネススクール客員教授。早稲田大学ファイナンスMBA、慶応大学商学部卒業。当時最年少の19歳で会計士補の資格を取得、大学在学中から監査法人に勤務。アーサー・アンダーセン、マッキンゼー、JPモルガンを経て独立。現在、株式会社監査と分析取締役。ウォール・ストリート・ジャーナル「世界の最も注目すべき女性50人」選出。

数字に対する意識が変わる

「企業に簿記の重要性を説いているのはなぜですか。」

経営者の場合、簿記を勉強すると取引先や銀行、税理士と話をする際の「勘所」がわかる、というのが一つの理由です。また、決算書で売掛金の金額を見た時に、会社の状況からして「過大では？」と感じることができれば、架空売り上げ等の不正を発見できるかもしれません。

もう一つの理由は、簿記を学ぶと

数字に対する意識が変わるからです。私が研修の講師を務める時には、できるだけ現実味のある状況を設定するようにしています。「工場にはどのような機械がありますか？」「〇〇の機械が3台あります」といったやり取りをするうちに、参加者が「うちの会社のROA（総資産利益率）を改善するには、あの資産は不要」など考えるようになります。意識の変化が見えてくるので

す。

決算書は毎日のビジネスの積み重ね

自社の決算書を見て、売り上げや利益をあと〇〇円大きくしたかった、と思うことがあるでしょう。もちろん、後から数字を変えることはできません。でも、決算書が毎日のビジネスの積み重ねであることを理解できれば、個々の取引や、その基盤となる契約を見直すことにつながります。

例えば、お客様に対してサービスを提供する場合、年間契約なのか、案件ごとに代金をいただくのかによって、決算書に集計される売上金額が変わってくる可能性があるのです。

また、簿記の知識があれば、今は就職に有利だと思います。中小企業や会計事務所で経理関係の人材ニーズが高まっていて、あちらこちらから「平林さん、簿記ができる人、誰かいらない？」とよく聞かれます。



公認会計士 平林 亮子 さん

Profile 平林 亮子 Hirabayashi Ryoko

1975年、千葉県生まれ。1998年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒。大学3年次に公認会計士試験に合格。太田昭和監査法人(現新日本有限責任監査法人)を経て、2000年、平林公認会計士事務所開設。2007年、女性士業プロジェクトSophia Netプロデュース。2010年、中小ベンチャー企業をサポートする士業ネットワーク、オールパートナーズ結成。

II. 活躍する先輩からのメッセージ



大杉 泉 さん

平成20年試験合格
スマホアプリ開発企業勤務

社会で働く身近な人を見ている中で、何か一生の武器になるものを身につけたいと思い、高校卒業後から公認会計士を目指すことにしました。

監査法人での勤務を経て、現在はベンチャー企業で取締役監査等委員として勤務しています。会計や監査の知識・経験を生かし、取締役の業務執行を監査することが主な業務ですが、経営の意思決定という会社の根幹部分に関与できることにやりがいを感じています。

今は子育てをしながら仕事をしていますが、公認会計士が活躍できる領域は大変広いので、自身のライフステージに合わせた多様なキャリア選択ができることも魅力だと思います。

笹部 孝 さん

平成20年試験合格
ヘルスケア企業勤務

将来、会社の経営に携わりたいと考え、学生時代に公認会計士を志しました。

現在は、ヘルスケア企業に勤務し、事業経営を統括する部門にて、様々な投資判断はもちろん、ときにビジネスモデルを自ら作成し、事業の成長をサポートしています。組織内編等の複雑な業務においては会計の専門的な判断が求められます。また、会計のみならず、税務や経営学等の多様な視点での助言が求められることも多く、非常にやりがいを感じています。

様々な分野での活躍について大きな期待を寄せられますが、それと同時に経験できる業務が幅広いことも公認会計士の魅力の一つだと思います。

学生時代より、将来、結婚をして子供が生まれても、仕事を続け、長く社会に出て活躍していきたいという思いが強くなりました。そこで、人生の選択の幅をひろげるためには、何か資格をもって専門知識を身に付けようと思い、公認会計士という職業に興味を抱き、志すようになりました。

ひとつの企業で働きながら、さまざまな業種、さまざまな規模の会社に接することができるのは公認会計士の仕事の魅力のひとつです。また、多くの人と出会いコミュニケーションをとる中で、信頼を得られたときに、大きな喜びを感じています。

経営に近い位置で仕事をしたいと思っていた私は、会計が事業計画や投資判断など経営の重要な場面で必要不可欠なツールであるを知り、興味を持ちました。

これまで20社以上のクライアントに関与しました。様々な業界動向や各社の事業戦略、ビジネスモデルを詳しく回すための仕組み(内部統制)などを間近で見ることができた点に、面白味を感じています。

経験を活かし、コンサルタントや証券アナリスト、ベンチャー企業のCFO等、様々なフィールドで活躍している先輩方もいらっしゃいます。志次第で多様な選択肢が広がっている点も、公認会計士という資格の魅力の一つだと思います。



鎌谷 真美 さん

平成21年試験合格
監査法人勤務

渡部 豪 さん

平成21年試験合格
監査法人勤務



公認会計士は、皆さんの未来の
魅力ある選択肢の1つです。

自分が向かうべき未来に向かって
しっかりと地固めをして
悔いのない高校生活を送ってください。

公認会計士・監査審査会 廣本敏郎